

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)／山田
芳明

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

私は教科教育の研究者であるのでその観点から、①授業内容、②授業方法、③成績評価について以下のように取り組む。
①学部・大学院共に授業内容として教育の不易と流行の視点から、教育現場に求められている教科教育に欠くべき内容とともに、今日的課題を積極的に取り入れた授業内容とする。
②学部・大学院ともに授業内容に沿って、講義の授業においても、アクティブラーニングを取り入れ、習得・探究に加えて活用する場面を取り入れた授業方法を工夫する。
③成績は、実質的な力が付いているかという視点から、単にペーパーテストだけではなく、取り組みの状況や、ディスカッションの内容等を加味した、多角的な観点から評価を行うようにする。

2. 点検・評価

①学部授業では、学習指導要領の変遷を押さえつつ、学生自身の目指す教師像を鮮明化するよう授業構成を工夫した。また、大学院授業では、本年度も受講学生を引率し、現場の第一線で活躍しておられる先生の授業を参観し、意見交換するなど、今日的な課題について学生が考える機会を設定した。
②前述の通り、講義科目ではあるが、協同作業を行う機会や、学生自らが発表する機会、現場を訪問して授業を参観する機会等、授業方法の工夫を行った。
③本年度よりデジタルタブレットを用いて学生の出席や授業への取り組みを記録し、総合的に評価を行うことに役立てた。結果として学生による前期授業評価において、いずれも高い評価を得た。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育活動については、本年度も引き続き学部、大学院共に授業改善に努める。
具体的には、I-1でも示したとおり、授業においては具体的で実践的な演習を積極的に取り入れることにより、学生が主体的に学習に取り組めるようにする。
また、教員になるための学びのリアリティを高めるように、現場への参観や、学生の学びの教育現場への還元等に取り組む。
学生生活支援としては、オフィスアワーはもとより、授業以外の時間を利用して学生からの相談に積極的に応じると共に、専修室やゼミ室等、学生の「学びの空間づくり」を継続的に行い充実を図る。

2. 点検・評価

I-1で示したとおり、授業については学生が主体的に取り組めるように改善を進めている。
また、現場への参観の機会を設定すると共に、本年度も8月9日10日に20名程度の現場の教員を集めた研究会を本学において開催し、そこには学生が自由に参加し主体的に学べる機会をつくった。
学生からの相談には、授業時間外にも応じており、実習中の学生等からの相談については、E-mailや電話等での対応も行った。
また、学生が研究資料や、論文を印刷して整理保存できるように、研究室で利用していたプリンター・スキャナーを専修室に移設し、トナーカートリッジ等の保守を行うなど研究・学習環境の整備につとめた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

① 図画工作科・美術科の教員の資質向上に関する研究に取り組み、科研への申請へつなげる。
② すでに8年間行ってきた、徳島県下の教員並びに、全国各地の教員を集めた「実践者研究交流会」を本年度も開催し、教員の資質向上に関する知見の収集と共に、教育現場への還元を図りたい。
③ その他、研究の推進のために、科研費等の、競争的資金を獲得につとめる。

2. 点検・評価

① 研究の準備がととのわなかったため本年度の科研の申請は行わなかった。
② 本年度も8月9日10日に「Art Teachers Summer Camp 2013(旧:実践者研究交流会)」を開催し、東京都、大阪市、堺市、姫路市、奈良市等から約20名の教員の参加を得た。
③ 本年度は競争的資金の獲得はできなかった。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①本年度も引き続き就職委員会、教員免許状更新講習実施委員会等、各種委員会の業務を積極的に行う。
- ②教員養成モデルカリキュラムの発展的研究にかかわる委員としての業務を積極的に行う。
- ③その他、GP、大学評価、教員養成大学改革の推進等、全学的な事業推進についての委員に関する依頼があれば積極的に協力をを行う。

2. 点検・評価

- ①積極的に行った。
- ②積極的・協力的に行った。
- ③依頼があれば、積極的に応じる準備していたが、依頼はなかった。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ①これまで同様に、本年度も附属小学校の共同研究者を引き受け研究の協力を積極的に行うとともに、自らも附属との連携を深めるように働きかけを行う。
- ②「鳴門市図画工作研究部会」等鳴門市や鳴門市教育委員会からの委員委嘱や事業協力要請に積極的に対応するとともに、県下はもとより、全国の教育委員会や教育研究団体等からの講演、実技講習の講師・指導助言依頼を積極的に受ける。
- ③鳴門市・大塚国際美術館・大学の三者連携事業「地域文化財教育活用プロジェクト」にもとづく「N*CAP」の取組の推進を図る。
- ④児童画展の審査員や評議員、民間教育研究団体の運営委員等の委嘱を積極的に受ける。

2. 点検・評価

- ①本年度も附属小学校の共同研究者として8回附属小学校に足を運び、図画工作科の教員と、同校の研究内容及び授業内容について、研究協議を行った。
また、同校の研究発表会に関して、指導助言者の手配をするなど積極的な協力をを行った。
- ②鳥取県教育センター、高槻市教育センター、豊中市教育センターからの派遣依頼をはじめ、多数の教育研究団体等からの講演、実技講習、指導助言の依頼に積極的に応じた。
- ③N*CAPの活動を推進し、その成果を11月に開催された「中四国子ども会育成研究会」において、実践報告として発表を行った。
- ④姫路市の学童展、新潟ジュニア展等の審査員の委嘱を受けた。
また、本年度は、文部科学省の委員や国立教育政策研究所の委員等の委嘱も受けた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)